

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2019

平成31年
2月1日発行

No.48

題字 大熊中学校2年 三瓶 風真さん (平成28年度当時)



震災時小学6年生が成人を迎えました。(開催地：いわき市・87人出席)

12月
定例会

医療福祉施設 11億4877万円 ②

町政を問う 2人が一般質問 ④

288号線拡幅実現へ ⑦

サークル紹介 茨城おおくま友の会 ⑧

条例制定一部改正 補正予算などを審議

平成30年12月定例会が12月12日から14日までの3日間の日程で開かれました。

第1日目に町長から条例制定および一部改正、副町長の選任、工事請負契約、一般会計補正予算など17議案が提案され、全員協議会で審議しました。

第2日目は2人が一般質問で登壇、アーカイブズ事業への提言や大野駅周辺の整備計画に関する提言が行なわれました。

第3日最終日に本会議を開き、条例制定および一部改正8議案、工事請負契約等5議案平成30年度一般会計補正予算等3議案、副町長選任の17議案を審議し、全議案とも全会一致で可決しました。

なお今定例会の傍聴者は23人でした。

石田副町長の再任同意

平成30年12月31日で任期満了になる石田副町長の選任を投票で行なわれ、議長を除く11人全員の賛成により再任に同意しました。



〔氏名〕 石田 仁
〔住所〕 大川原字西平
〔生年月日〕 昭和29年6月1日
〔任期〕 平成31年1月1日から4年間

医療福祉施設発注支援に1689万円追加 整備総額は11億4877万円

被災地域農業復興総合支援に係る農業機械等の無償貸与・譲渡に関する条例制定や町営住宅、防災会議などの条例の一部が改正されました。またいちご工場外構工事請負契約、新庁舎の備品購入契約、職員宿舎の取得などが審議されました。

一般会計補正予算では、医療・福祉施設の継続費や開所時期、大野駅周辺整備計画などが審議されました。

一般会計
医療・福祉施設
11億4877万円

平成30年度から31年度にかけて整備する町民福祉センター、20人が入所可能なグループホームの施設整備の予算は平成30年9月定例会で計上されましたが、施設の発注支援委託費1689万円追加しました。

開所時期は平成32年4月を予定しています。

請負契約
いちご工場外構整備
1億6740万円

いちご栽培施設等外構整備工事が11社の指名競争入札により決定しました。

契約会社 田中建設株式会社
工期 平成30年11月14日から平成31年3月29日まで

条例制定
被災地域農業復興
総合支援事業

復興再生が遅れが生じている市町村の農業復興を図る目的で、市町村が実施する農業用施設の整備および農業用機械の導入を総合的に支援するため、無償貸与・譲渡に関する条例が制定されました。

地域の意欲ある経営体の育成・確保および早期の営農再開を支援するもので、町ではいちご工場運営に活用します。

対象になる団体・個人
JA、営農組合、営農団体、認定農業者、新規就農者など

備品契約
新庁舎備品購入
1億5012万円

大川原新庁舎の備品契約が8社の指名競争入札で決定しました。

契約会社 株式会社双葉事務器
納入期限 平成31年3月29日

福島再生加速化交付金事業の被災地域農業支援 いちご工場への無償貸与期間は14年

議案審議では条例改正・一般会計補正予算などで多くの質疑がかわされました。その中から主な内容について報告します。

【条例改正】

被災地農業支援

問 いちご工場に活用するところがあるが無償貸与年数は何年か。他自治体の状況はどうか。

答 また認定農業者も対象になつていますが容易にできるのか。

答 無償貸与期間はいちご工場は14年、管理棟は22年、農業用機械は7年となる。貸与期間を超えたものは譲渡される。

他自治体では南相馬市と楡葉町でカントリ―エレベーター、葛尾村では胡蝶蘭栽培など条例を制定して7市町村で活用している。またこの補助制度は大規模な営農活動が対

象になつており、認定農業者単独での認定は難しいと考えている。

町営住宅入居基準

問 入居者基準の一部を改正するが、大川原町営住宅応募は現在どういう状況か。

答 12月3日から県内3カ所で説明会を開催し62世帯が出席した。13日現在では26世帯の応募があり14日に中間報告、21日締め切りの予定で進めている。50世帯未満の場合は再公募をかける。公開抽選は1月17日に実施する。

防災会議

問 町の防災会議の定数を33人以内から34人以上に見直したが、新

たに委員を考えているのか。

答 防災の専門委員として新たに自衛隊と海上保安庁に入つていただくことを考えている。

【一般会計】

税収入

問 固定資産税が1億1946万円減額補正されているがなぜか。

答 大規模償却資産の算定根拠となる課税限度額は、福島県で決めるため毎年変動があり本年度は町分が減額になった。

いわき市仮設住宅解体

問 解体のスケジュールは。

答 いわき市内7カ所の内5カ所解体する。福島県の事業で11月に入札は終了し施工会

社も決まっている。

1月から解体作業を開始し、3月中には地権者に返す予定である。

好問第一・第三が残り現在39世帯が入居している。

大野駅周辺整備

問 委託費に2億1477万円計上されたが具体的な内容は。

答 平成32年3月のJR常磐線全線開通に併せ駅東西口の一部を解除するための事業で、測量、地質調査、物件調査算定、基本設計等一団地整備の委託である。

町民への説明会は平成31年3月を考えている。

大熊―C整備

問 開通式典委託として180万円計上されているが町単独事業か。

答 環境省、福島県、町の合同で実施する。

問 周辺に整備される駐車場は除染廃棄物輸送車の待機専用になるのか。

答 輸送車の渋滞緩和のためトラック約150台が東西に駐車できるスペースは確保する。

今後環境省と協議し一般車両も駐車できるよう進めていく。

国民年金

問 国民年金システム改修委託に21万円計上されているが具体的な内容は。

答 国民年金法の改定により、平成31年4月から妊婦の産前産後8週間の国民年金が免除になるためのシステム改修である。

12月6日、会津若松出張所において東京電力、環境省からそれぞれの課題について説明を受けました。
 主な内容を報告します。

東京電力 原子力災害支援 拠点を大川原へ

原子力災害対策支援拠点として新大熊単身寮と大川原駐車場の2カ所を整備し、原子力災害時の早期収束と拡大防止のため、オフサイトからの支援を迅速にできるよう整備するものです。運用開始は平成31年4月以降を想定しています。

問 支援拠点にはどのような機能を持たせるのか。また常設にするのか。

答 新大熊単身寮には本部機能。駐車場には①自衛隊、警察、消防の拠点②入退域管理、被ばく線量管理③車輛汚染検査、除染場などを設置する。

常設は小型非常用発電機2台と燃料とテント収納倉庫などで、通常は駐車場と寮として利用する。

津波リスク対策

震災時設置されたメガフロートが津波漂流物となり周辺設備を損傷させるリスクがあるため、内部にモルタルを充填させ着底させます。

本対策は、メガフロートの移設着定マウンド造成のため、法律の規定により町長同意が必要です。
 平成31年中完成の予定です。

環境省 平成31年度の輸送車両 1日平均2400台

①輸送

平成31年度の輸送車両1日平均2400台年間400万m³の予定になります。平成30年度は1日平均1200台年間180万m³でした。

②安全対策

工事施工に伴い、安全に関する意識の向上を図るため中間貯蔵工事等協議会を設置し災害防止・交通安全に係るパトロールを実施します。

③用地の進捗状況

用地取得は平成30年11月末日で1633人、69.2%が契約が完了済みです。

問 国道288号線は狭く歩道もなく危険である。全面拡幅を早急に行ってほしい。

答 県と協議しながら環境省としてできることはやっています。

復興への 課題をとらえて ズバリ 町政を問う 2人が一般質問



マスコットキャラクターくわちゃんと一緒にハイポーズ
 (岩手県北上市更木地区より毎年もち米をいただいています)

1. 廣 嶋 公 治 議員

地区単位の集落史をつくり配布すべき

5

2. 千 葉 幸 生 議員

町長直轄のプロジェクトチームが必要では

6

廣嶋 公治 議員



問 地区単位の集落史をつくり配布すべき

答 地区住民の主体的な取り組みが重要

アーカイブズ事業

廣嶋 アーカイブズ事業は避難が続くなか復興が進み震災前の町の姿、震災でどう変化したのか、復興の過程でどんな町になるのかを記録し伝える事業である。

町では震災記録誌作成・配布および中間貯蔵施設内定点撮影・航空写真記録を実施している。

今後は復興拠点の移りゆく姿の定点撮影、過去の広報写真整理・デジタル化、公文書保全、個人文化財救出保管・重要文化財の保全記録等を実施すると聞いている。

一方では町アーカイブズ検討委員会を立ち上げ有識者を交えて議論しているが、収集保全した資料の保管場所活用方法は示されていない。
そこで次の点について

提言する。

①過去の広報写真はイベント等で展示、要望があれば写真を配布してはどうか。

②イベント等で町民より写真にまつわる思い出を聞き取り、地区単位で集落史を作り配布してはどうか。

③中間貯蔵施設内定点撮影・航空写真・復興拠点の変化記録は、庁舎内の大熊ホールで映像の公開、またビデオに収録し希望者に配布してはどうか。

④個人文化財の救出・保管した資料は、空調設備を完備した仮施設を整備すべきである。これらの資料は一般公開すべきである。

町長 ①ふるさとまつりや各地で開催する交流イベント、敬老会等でモニターにて上映しより多くの写真を見てもらう機会を増やし、希望する町民へは可能な限り配布する。

②中間貯蔵施設建設で地域が消滅してしまう各行政区の有形文化財と地域で語り継がれた生活史や伝承などの無形文化財も将来に残していく。

各行政区が後世に伝えたい文化財は地区住民の主体的な取り組みが重要であり、町として資料提供や活動に対する支援をしていきたい。

③町の成立ちや震災復興の状況を紹介するプロモーション動画を作成しホームページで公開する。DVDでの配布も検討する。

④個人文化財の仮保管

施設は大野児童館、大野小学校体育館、町公民館を活用する準備を進めている。

資料の公開は秋の文化展で展示したところ、町民より「懐かしい昔はこの道具を使っていた」などと関心の高さを再認識したので保全収集した資料の紹介に努め、新施設の設置も含め可能な限り速やかに対応していく。



文化財を後世に伝えることが重要



千葉 幸生 議員

問 町長直轄のプロジェクトチームが必要では

答 今年度中には専門の部署を設置する

駅周辺整備計画

千葉 大野駅周辺の一

部は、常磐線の開通に併せ平成32年3月頃には、避難指示解除が予定されている。

駅周辺の整備計画の進捗や具体的な内容の内、次の4項目について問う。

- ①常磐線開通時期までに大野駅西口は除染解体、インフラ整備が終了し、ある程度の粗造成が終了しているのか。
- ②駅周辺の整備計画の内、基本イメージ計画図、基本設計、実施設

計（施工工程表含む）の完成時期はいつ頃か。

③用地確保のための地権者との交渉は行っているのか。また用地取得完了はいつ頃を予定しているのか。

④大野病院周辺の具体的な整備計画はいつ頃できるのか。また県への要請として、病院再開時期はいつ頃を指すのか。

次に町長直轄のプロジェクトチームとして日常の通常業務に一切関わらない駅前整備に

特化したチームをつくり、予算や財源の確保から用地取得、移転補償などを専門的に対応し、速やかに基本計画実施計画を策定する町

長直轄で動く人員が必要であると考える。

そのメンバーとしてアウトソーシングを活用し、直轄チームを立ち上げるべきと確信するが所見を問う。

次に町長直轄のプロジェクトチームが望ま

町長 ①駅周辺の整備は、用地取得と除染

解体を一体的に行う必要があり、解体は用地や建物を取得してから着手する。

特に駅西口は平成31年の秋頃の用地取得を目指し常磐線開通時期までには、除染解体が終了するよう考えている。

②大野駅周辺の概略設計から基本設計は平成31年9月頃まで、実施設計は平成33年3月末頃までの完了を予定している。

④病院敷地の避難指示は平成31年3月頃に解除し、病院の早期再開を目指すよう県に要望していく。

次に地権者に対する用地交渉や駅前整備計画の策定には、人手が足りないのは事実であり、駅前整備に特化した専門のチームが望ま

しいことは十分承知している。

今年度中には用地交渉等の業務を一本化できる専門の部署を設置する。



駅周辺の整備計画を早急に

288号線拡幅実現へ 議会が要望活動を継続

10月25日委員会を開催し、総務課、教育総務課、復興事業課より各施策の進捗状況について調査しました。

国道288号線

国道288号線のうち玉の湯トンネルから県道35号線までの見通しの悪い場所や狭い場所3カ所の整備について説明がありました。対策としては、見通しの悪い場所は用地交渉を進め土地買収後に道路を拡幅します。樹木の伐採やバリケードを後退させ道路幅を確保します。

委員からは部分的な改良では抜本的な解決にはならない。議会も拡幅工事の継続的な要望を確認しているのも町も関係者と粘り強く調整して欲しいとの意見がありました。

アーカイブズ事業

大熊町の誕生から原子力発電所の誘致、震災前の暮らしや文化等を記録する事業です。震災からの復興や原発事故による避難はどう行われたのか。世界中に注目される大熊町にしか出来ない記録をつくっていきます。

委員からは被災した町の状況が伝わるような施設をつくることなどの意見がありました。

再生可能エネルギーと 循環型農業確立を目指す

10月24日委員会を開催し企画調整課、産業建設課、環境対策課より各施策の進捗状況について調査しました。

バイオマス

農地を保全管理していく事業としてエネルギー作物を栽培し、メタン発酵技術を活用した再生可能エネルギーの生産と循環型農業の確立を目指していくとの説明がありました。

委員からは先進地の状況を踏まえて慎重に進めることが必要であるとの意見がありました。

駅周辺整備

JR大野駅周辺、旧大野病院跡地、下野上地区を一団地の復興再生拠点エリアとして整備していくことを予定しています。

大野駅周辺の開発については公募型プロポ

ーザルにより民間企業の知恵と技術、マンパワーを活用し、早期開発を目指します。

委員からは今後の用地交渉については早急に検討し、確実に進めてほしいとの意見がありました。



試験栽培されているエネルギー作物 農地保全に期待

楽しく笑いのたえない場所

茨城おおくま友の会

もちつき&クリスマス会



子どもたちも参加しています

私たちは茨城方面に避難した町民の交流を深めることを目的とした会です。現在の会員数は48名です。

2～3カ月に1回の割合で集まり陶芸やバーベキューやクリスマス会など会員のみなさんの希望する行事を行っています。

新年会を鵜の岬でやりたいと思います。

今年も会員の意見を聞きながら楽しく笑いのたえない場所にしていきたいと思います。

ぜひ参加をお待ちしています。

事務局 荒木 敏雄

会 長 玉澤 優子 (☎090-3754-7849)

笠間で手びねり体験



陶芸はむずかしい

きららの里でバーベキュー



みんなで食べるとおいしい

発行責任者 委員 委員 委員 委員 副委員長 委員長

鈴木 松永 堀川 加藤 木幡 佐藤 仲野 阿部
光一 秀篤 巨夫 良一 照彦 剛 光國

広報公聴常任委員会

傍聴に来てください

3月定例会は7日からの予定です

役場2階議場前で簡単な説明を受け
気軽に傍聴できます

お詫び 議会だよりおおくま第47号の5ページ固定資産評価審査委員の泉田隆一氏の任期が平成30年9月28日から3年間との表記がありましたが、正しくは平成30年9月22日の誤りでした。訂正しお詫び申し上げます。